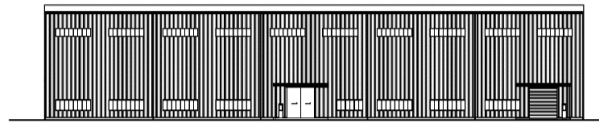


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)三五 福田工場新プレス棟	階数	地下0階地上1階
建設地	みよし市福田町宮下1番1、14番、15番、16番、36番1、37番福田3番、44番1の一部	構造	S造
用途地域	都市計画区域内市街化区域	平均居住人員	20人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,205時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年4月 予定	評価の実施日	2022年11月11日
敷地面積	103,490 m ²	作成者	株式会社GUIS 古澤
建築面積	6,176 m ²	確認日	2022年11月12日
延床面積	6,056 m ²	確認者	小室 武



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.0

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">2.0</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">42.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">3.2</p> <div style="text-align: center;"> </div>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分			住居・宿泊部分			全体	
			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									2.5	
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	-		
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-		
2 界壁遮音性能			-	-	-	-	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	3.0	-		
1.3 吸音										
1 吸音			-	-	-	-	3.0	-		
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温			3.0	-	-	-	3.0	-		
2 外皮性能			3.0	-	-	-	3.0	-		
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-		
2.2 湿度制御										
1 湿度制御			3.0	-	-	-	3.0	-		
2.3 空調方式										
1 空調方式			3.0	-	-	-	3.0	-		
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率			3.0	-	-	-	3.0	-		
2 方位別開口			-	-	-	-	-	-		
3 昼光利用設備			3.0	-	-	-	3.0	-		
3.2 グレア対策										
1 グレア対策			5.0	-	-	-	3.0	-		
3.3 照度										
1 照度			3.0	-	-	-	3.0	-		
3.4 照明制御										
1 照明制御			3.0	-	-	-	3.0	-		
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質			3.0	-	-	-	3.0	-		
4.2 換気										
1 換気量			3.0	-	-	-	3.0	-		
2 自然換気性能			3.0	-	-	-	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	-	3.0	-		
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-	-	-	-		
2 喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-		
Q2 サービス性能									3.3	
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性			3.0	-	-	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-	3.0	-		
3 バリアフリー計画	独自		3.0	-	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観(天井高)			3.0	-	-	-	3.0	-		
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-		
3 内装計画			3.0	-	-	-	-	-		
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性									2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			0.4	3.0	0.48	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.80	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数			0.3	3.0	0.33	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		-	3.0	0.25	-	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	3.0	0.10	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	-	-	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			-	3.0	0.17	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.25	-	-	-		
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備			0.1	2.7	0.19	-	-	-		
2 給排水・衛生設備			3.0	3.0	0.25	-	-	-		
3 電気設備			3.0	-	-	-	-	-		
4 機械・配管支持方法	②		3.0	3.0	0.25	-	-	-		
5 通信・情報設備			3.0	2.0	0.25	-	-	-		

3 対応性・更新性			0.4	3.8	0.48	-	-	-	3.8	
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり	②	階高6.5m以上 壁長さ比率:0.1	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.6	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	内装仕上げ材が無いため 内装仕上げ材が無いため	-	-	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	-	-	-	-	-	-
3	電気配線の更新性			3.0	5.0	0.17	-	-	-	-
4	通信配線の更新性			3.0	5.0	0.17	-	-	-	-
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.57	-	-	2.0	
1	生物環境の保全と創出	独自③		-	2.0	0.30	-	-	2.0	
2	まちなみ・景観への配慮	独自④		-	2.0	0.40	-	-	2.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	2.0	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	1.0	0.50	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性									3.0	
LR1 エネルギー						0.40			3.0	
1	建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-	-	-	-	
2	自然エネルギー利用			3.0	-	-	-	-	-	
3	設備システムの高効率化		BEI=0	3.0	-	-	-	-	-	
4	効率的運用			1.0	3.0	1.00	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						0.30			3.3	
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15	-	-	3.0	
1.1 節水				3.0	-	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63	-	-	3.0	
2.1	材料使用量の削減	②	-	-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	独自	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-	-	3.0	1.0	0.21	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能な仕様となっている	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.3	0.22	-	-	4.3	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	5.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		発泡剤を用いた断熱材を使用していない	-	5.0	1.00	-	-	-	
3	冷媒			3.0	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境						0.30			2.9	
1 地球温暖化への配慮		①	#DIV/0!	-	-	-	-	-	-	
2 地域環境への配慮				0.5	2.8	0.50	-	-	2.8	
2.1 大気汚染防止			燃焼設備を有しない	-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.5	3.0	0.50	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(株)三五 福田工場新プレス棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00
② 資源の有効活用			3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.21
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19
③ 敷地内の緑化			2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17
			外構緑化:42.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (株)三五 福田工場新プレス棟

計画上の配慮事項	
総合	緑地を40%以上配置し敷地内の緑化に努めている。
Q1 室内環境	注)「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 対象外。
Q2 サービス性能	階高6.5m以上としゆとりのある空間を確保している。
Q3 室外環境(敷地内)	緑地を40%以上配置し敷地内の緑化に努めている。
LR1 エネルギー	特になし
LR2 資源・マテリアル	特になし
LR3 敷地外環境	特になし
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。